Human-Rights Communication

延岡市立岡富中学校 じんけん通信

2020年8月24日　第6号（通算２８号）　【文責】人権・同和教育担当：長友伸二

【今号の内容】
□心への攻撃
□「マスクがつけられない人」への理解

岡富中ＨＰでバックナンバー公開中！

心への攻撃

～一人一人の人権意識が試される

新型コロナウイルス感染症が再び広がっています。本県もその渦中にあり、早い収束が望まれます。り患された方にお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈りいたします。今回は、「コロナ差別」について考えます。

公益財団法人人権教育啓発推進センターのキャンペーンロゴ（同ＨＰより）

感染を広げないための情報は必要です。しかし、その情報をもとに誹謗中傷をする人がいることも事実です。ここでの「差別」は誹謗中傷がほとんどです。これについて、社会心理学者の碓井真史さんは、次のように語っています。

「誹謗中傷をやめましょう」。この言葉に反対する人はいません。しかし問題は、自分の行為は誹謗中傷ではなく、正しい言動だと思ってしまうことなのです。コロナの不安とストレスは、過剰な防衛本能を生み、人の心を内向きにさせ、よそ者や感染症を排除しようとしてしまうのです。

日本人の感染拡大防止の努力、周囲に迷惑をかけてはいけないとの気遣いが、反転すると、感染したことを「自業自得」ととらえて、だから攻撃するということにつながるのでしょう。

（8月2日付「Yahoo!ニュース」コメントより一部抜粋）

誰も最初から相手を攻撃しようという人はいません。「正しいこと」と勘違いしている誹謗中傷ほど、質の悪いものはないでしょう。やったという自覚すらないのですから。

もちろん、誹謗中傷には断固たる態度が必要です。岩手県の達増拓也知事は、個人だけでなく、企業に対しての誹謗中傷に「犯罪になる場合がある。厳格に臨む意味で鬼になる必要もある」と警告しています。

誹謗中傷した人は「正しい」と勘違いした自分の言動を見つめ直してほしいです。そして誹謗中傷した人を単に責めるのではなく、新型コロナウイルスの正しい予防活動に「ともに参加しましょう」と促していきたいものです。

闘う相手は人ではなくウイルスです。ウイルスによる「心への攻撃」を、一丸となって防いでいきましょう。

（Yahoo!ニュース」他より）

「マスクがつけられない人」への理解

マスクは不足なく供給されるようになってきましたが、マスクをつけることができない人たちがいるのをご存じでしょうか。肺に病気がある人や、布が肌に触れることによって強い痛みを感じる「感覚過敏」の症状がある人です。マスクをしないことで、周りの人々が誤解し、偏見をもつことで、そのような人たちを苦しませています。そのような人たちのために、現在、さまざまな商品が登場しています（口元を覆う半透明の扇子、「マスクがつけられない」意思表示カードなど）。

コロナ禍で気付かされる人権があります。それを感じたニュースでした。

（「テレ朝ニュース」他より）

※誹謗中傷：根拠のない悪口を言いふらして、他人を傷つけること。

２０２０年度第６号

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年　　組／お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ペンネームも O.K. です）

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（　○　・　×　）